

学校長通信 No.4

ICT プレゼンテーションルームを新設します

日本経済が世界への挑戦者であった 20 世紀には、受験学力 = 学歴 = 安定就労 = 安心老後という鉄板の法則がありましたが、今やそれを信じることは難しくなってしまったように思います。もちろん、有名大学を頂点とする学歴のヒエラルキーが今も存在していることは事実です。しかし、これが必要ではあっても十分条件ではない、という現実直面する現代は「共通前提のない多様性の時代」とでも言うべきものかもしれません。

それは、今の若者達のシューカツにも大きな影響を及ぼしていて、学歴だけではなかなか就職が決まらない、という辛過ぎる現実が日常的に突きつけられるとともに、必要な力として「コミュニケーション能力」や「独創性」ということが盛んに言われるようになっていきます。ほんの少し前の時代にも、この力は重視されていたのですが、その当時のコミュニケーション能力と言いますと、仲間内で礼儀正しく気配りができる、空気を読む力がある、という程の意味合いが強かったように思いますし、独創性とはいいましても、集団から大きくはみ出さない程度の型破り性、くらいであったように思います。

それに対して、現在言われているコミュニケーション能力とは、異文化・異価値との共生力であったり、自分の思いを表現できる力を指していることが多いようですし、さらにその能力に強烈なオリジナリティを求められているわけですので、今の子ども達は大変としか言いようがありません。こんな時代に、私たち大人はどんなアドバイスをし、どんなサポートができるのでしょうか。

受験学力 + プレゼンテーション能力 = 日根野スタイル

私たちの日根野高校に、**三つのスクリーンを配備した ICT プレゼンテーションルームが設置されることになりました。**この部屋で、10 人程度の 3 つの小チームの全員がタブレット端末を使って、高頻度で濃密なプレゼンテーション授業を展開していく計画です。これからのコミュニケーションの時代を生きていくために、受験学力プラスワンとして必要になる能力のひとつがプレゼンテーション能力であると考えたからです。生徒達に場数を踏ませ、照れや気後れを克服してほしいという強い思いで予算組みをいたしました。より大切にしたいことは、論理の力で相手を圧倒する鋭いディベート能力ではなく、相手からの共感を得るしなやかなプレゼンテーション能力である。私たちはそう考えてみたいと思います。